

2020年11月28日

株式会社 GT アソシエーション

FIA-F4 事務局

FIA-F4 選手権 第10戦 決勝上位コメント

■ 第10戦 決勝1位 平良 響【#35 TGR-DC RS トムススピリット F4】



「富士は比較的パッシングしやすいコースなので、3番手スタートでも大丈夫と思っていました。スタートで2番手に進出し、セーフティカーが出たあとも上手くポジションを上げてトップに立つことができました。そこから小川選手（No.77 小川颯太）に後方からついて来られて、少しプレッシャーもありましたが落ち着いて走り切ることができました。小川選手にダンロップコーナーで仕掛けられたときは、間合いを考えて『多分（仕掛けて）来ないんじゃないか』と思っていました。ただやはり（彼の）スピードから考えれば無理だったみたいで、クロスラインでかわすことができました。

チャンピオンを獲得することができて嬉しいのですが、こうなると余計に第1戦で3位に終わったことが悔しいですね。でも、そこから『絶対に勝つ』という想いを強くしてレースに臨んだことがチャンピオンに繋がったのも事実です。違うコース、違うコンディションでも連勝を続けることができ、自分の力をアピールできたと思います。ここまで来たら、狙うは11連勝。まずは午後の第11戦で10連勝を狙っていきます」

■ 第10戦 決勝2位 小川颯太【#77 WARMTECH SkillSpeed】



「前戦（もてぎ大会の第9戦）に続いて平良選手（No.35 平良響）に負けてしまいましたが、特に自分が大きくミスした訳でもないの“悔しい”というのとはちょっと違います。（セーフティカーからの）リスタートではセットの違いもあって、自分で対処しきれませんでした。平良選手の後方から隙を窺っていましたが、まったくミスがなかったですね。ダンロップコーナーで仕掛けたのはやはり無理でしたが、チャレンジしたことで次に繋がるレースになりました」

■ 第10戦 決勝3位 澤 龍之介【#97 BJ Racing スカラシップ JSS】



「もともとブレーキングには自信があったのですが、今回、ますます自信を深めることができました。前方にクルマがいなくてスリップストリームを使うことができずにペースが遅く、後方集団に追い付かれてしまいました。それにレース終盤にはリアタイヤが厳しくなって滑りやすくなってしまいました。何とかポジションを守り切って3位入賞することができました。9番グリッドからのスタートだったのですが、まさか表彰台に上がれるとは思っていませんでしたので、素直に嬉しいです」

■ 第10戦 インディペンデントカップ1位 佐藤セルゲイビッチ

【#3 結婚の学校 フィールドモータースポーツ】



「アクシデントなど混乱の多いレースになりました。でもそうした混乱に冷静にうまく対処できました。それが今日の勝因ですね。トップを走っていた齋藤選手（No.96 齋藤真紀雄）とも同じくらいで、後方にいたTORIBA選手（No.56 YUTAKA TORIBA）は離れていってしまいましたから、速さも充分だったと思います。これでシリーズポイントでも2位以下と差を広げることになりました。でも午後の第11戦で優勝して（チャンピオンを）決めたいですね。もちろん3連勝を狙っていきます」